こんぎ新聞

今・むかし

日本秘境サミットが開催されました。
日本むらおこしセンター、宮崎県椎葉村、奈良県十津川村、熊本県泉村、徳島県東祖谷山村主催で、後援に運輸省、国土庁、徳島県そのほかNHK徳島放送局、四国放送、そして、新聞社が六社という大きなイベント。
当日は、テーマが「むらおこし」「ものおこし」「ひとおこし」のおこし"ひとおこし"という公、基調講演に小笠原暁氏が「むらおこし、ものおこし、ひとおこしを考える」をテーマにお話がありました。
パネルデスカッションも「秘境と都市の共生」で五名のパネリスト、コーディネーター伊藤達雄氏の三重大学人文学部長)もあり、実に内容のあるサミットとなりました。
参加町村もすごいですよ。
全国から二十七町村、町村長や助役が参加。熊本、宮崎、奈良和歌山、岡山、富山、新木、四国では、香川、高知県から参加されています。
そこで、二十七町村からそれぞれの町村のとり組みの中心や課題を報告しています。
地域の文化を観光にするべく工夫をこらしたり、それぞれの特産品を作り出したりしていることが報告されています。

むらおこしの"むら"とは、村のことではなく、人間の集まりのことをいうのだそうです。
"ものおこし"とは、地場産業の振興のことをいうのだそうです。
"ひとおこし"とは、人材育成のことをいうのだそうです。
むらおこしの"むら"とは、村のことではなく、人間の集まりのことをいうのだそうです。
"ものおこし"とは、地場産業の振興のことをいうのだそうです。
"ひとおこし"とは、人材育成のことをいうのだそうです。

むらおこしの"むら"とは、村のことではなく、人間の集まりのことをいうのだそうです。
"ものおこし"とは、地場産業の振興のことをいうのだそうです。
"ひとおこし"とは、人材育成のことをいうのだそうです。

'18.2 No248
発行 市岡自治会
0883-88-5292

どうぐ

春だよ～

むらおこしにむけて、各町村がアイデアを出し、地域活性化、元気にするとり組みが活発にとり組んでいる様子が伝わってきます。
そして、課題は、ほぼすべての町村が共通している様で、「若者の定住」でした。
昭和三年から昭和六十年の間の人口増減の報告を見ると、昭和三十年を100として昭和六十年になると、ほぼすべての町村五十以下になってる程、大きな課題となっています。
という秘境サミットの第二回目が東祖谷で開催されたのが昭和六十二年一九八七十月七日のことです。
人口でいえば、昭和三十年は八千九百七十四人でいました。それが昭和六十年になると三千二百五十人。昭和三十年を100として、昭和六十年にはなんと三十六、二となっています。
私も、この町に中学を卒業し、高校に行く為東祖谷山村を出て、関東の千葉県まで出て行ったのです。
同級生でも、全員そのまま就職し、東祖谷に残ったのは、十人位だったと記憶してます。
この時代から、村の課題は明確であったと言えますが、大変、大きく、重要であり、地方の村だけでは解決が困難だったことは言うまでもありません。
他方、今でも、人口減、若者定住化しは大きな課題であり、より深刻化していると思います。
なんにもしていなくはない。それぞれの町村で様々な策を出してはつぶれ、しているのかもしれない。
でも、全国的な秘境サミットまで開いたというのに、その時の文章を見ると、なんともいえない気持になってしまいます。